



ASSURANCE STATEMENT

第三者保証証明書

本書は富士フィルムホールディングスサステナビリティレポート2009に示されるサステナビリティ活動に対するSGSジャパンの保証報告書である。

保証/検証の範囲

SGS ジャパン（以下、当社）は、富士フィルムホールディングス（以下、組織）からの依頼に基づき、サステナビリティレポート 2009 の第三者保証業務を行った。保証の範囲は、SGS サステナビリティレポート保証手続きに則り、当レポートに含まれる文章、表に記載されたデータ、そして報告プロセスをサポートするマネジメントシステムを含んでいる。

サステナビリティレポート 2009 に示されている情報やその掲載は、組織の責任に帰するものであり、当社は、当レポートに含まれる内容の準備には関与していない。

我々の責任は、次に記述した検証の範囲内における文章、データ、グラフ及び声明について意見を表明し、組織のすべてのステークホルダーに意見を供することである。

SGS グループは、現在最も優れた指針を提供している GRI サステナビリティ報告ガイドライン(2006)や AA1000 保証基準(2008)に基づき、サステナビリティレポートの保証にかかわる基準を確立している。この基準には、段階的な異なるレベルが設けられており、報告組織における過去の報告実績やニーズに応じた適用を可能としている。

本保証においては、次の内容を含むレベル 3 の基準を採用した。

- 内容の正確さ
- 報告内容とそれをサポートするマネジメントシステムの AA1000 保証基準(2008)に基づく評価 (AA1000 保証基準における保証タイプ: タイプ 1、保証レベル: 中程度)

本保証にかかわり訪問したサイトは、富士フィルムホールディングス株式会社(FH)、富士フィルム株式会社本社、富士ゼロックス株式会社本社、富士フィルム株式会社富士宮工場(富士宮)、富士ゼロックスイメージングマテリアルズ株式会社(FXIM)、及びフジノン株式会社本社であり、種々の手続きの組み合わせによって保証業務を実施した。

- ・ 事前調査、重要な課題の特定プロセスのレビュー (FH で実施)
- ・ 経営層へのインタビュー (FH で実施)
- ・ 本レポートの作成及びレポートへの情報提供を行った責任者及び担当者へのインタビューと関連資料のレビュー (全サイトで実施)
- ・ ステークホルダーダイアログ 2009 への立会い、外部機関/ステークホルダーへの確認と関連資料のレビュー (FH で実施)
- ・ サンプルングしたデータについての証拠書類等との照合及び確認 (富士宮及び FXIM で実施)

財務データについては、会計士によって直接監査されており、本保証の過程においては、詳細な調査を行っていない。また組織のウェブサイトで提供される追加情報については、PRTR情報を除き、保証の対象としていない。

独立性と力量の声明

SGSグループは、検査、試験、検証業務における世界的リーダーであり、140を超える国々で、品質、環境、社会及び倫理にかかわるマネジメントシステム認証業務や、トレーニングサービスを実施し、環境、社会及びサステナビリティレポート保証業務を提供している。SGSジャパンは、富士フイルムホールディングスやその関連会社、ステークホルダーからも独立しており、いかなる偏見や利害の抵触がないことを断言する。

保証業務に携わったチームは、知識や当該産業分野における経験、そして本保証業務に関する資格に基づき構成されており、EMS、QMS、OHSAS、SA8000、GHGにおける主任審査員、そしてIRCA認定持続可能性保証人を含んでいる。

検証/保証意見

前述の要領に基づいて実施した検証結果に基づき、我々は、富士フイルムホールディングスサステナビリティレポート 2009 に含まれている情報やデータは、正確で信頼性があり、報告期間内の組織のサステナビリティ活動を公正かつ相応に表現したものであると判断する。

当レポートは、組織のステークホルダーにとって有効なものとなっている。

採用した保証レベル（レベル3）は、組織のレポート内容の成熟度に照らして適切なものであった。

富士フイルムホールディングスとAA1000保証基準（結論、発見事項及び提言）

包括性

組織のステークホルダー参加プロセスは包括的であり、取り組みが進んだ課題の中には、ステークホルダーエンゲージメントによる効果が実を結んでいるものも見られる。

2004年から継続しているステークホルダーダイアログについては、単年度で見ると、規模が縮小しており残念である。しかしながら、これはステークホルダーダイアログの活用目的の見直しに伴うものであり、2008年度は、ステークホルダーダイアログに関するプロセスの明確化や、現場担当者に対する、自発的な外部とのコミュニケーション促進への動機付けに力が入れられていた。

今後、各部門による積極的なステークホルダーダイアログの実施と、ステークホルダーエンゲージメントの深化が大いに期待される。

重要性

組織は、組織のビジネスにとって重要な課題を決定するプロセスを確立している。

組織とステークホルダー双方の視点において、広範な情報源からの様々な課題の重要度をリスクアプローチによって体系的に特定し、優先順位付けを行っている。

対応性

組織は、ステークホルダーのニーズ、関心事及び期待に対応し、重要な課題の取り組み内容や成熟度に合わせた報告を行っている。

生物多様性については、新たにグループの方針が制定されたところであり、動きに合わせた報告が行われている。一方で人的多様性については、取り組み内容がKPIに反映されていないものもあり、今後の対応が期待される。

また中期CSR計画について、本年のレポートでは、2007年度及び2008年度の実績が記載されており、昨年より進んだ報告が行われている。現在策定中の次期中期CSR計画にて、重要課題に関する目標の更なる明確化を検討する余地がある。

署名:

SGS ジャパン株式会社

代表取締役 曾我 正博

2009年 7月 3日



AA1000

Licensed Assurance Provider

000-6